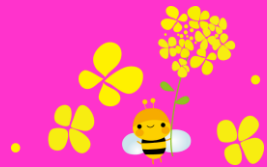


灘区医療介護サポートセンター便り



2026年(令和8年)4月 第13号

発行 灘区医療介護サポートセンター

住所 灘区水道筋1丁目24 灘区医師会館内 電話 078-801-1120 FAX 078-801-1121

新年度に入り、多忙な日々をお迎えのことと思いますが皆さまいかがお過ごしでしょうか。

引き続き 令和8年度もよろしくお願ひいたします。



「医療介護サポートセンター」は地域の医療・介護関係者の連携をサポートすることで、安心して暮らせる地域づくりを目指します。

「サポートセンター便り」では、医療・介護・福祉職の皆さまの連携に役立つ情報や研修会等の活動報告を発信してまいります。

灘区医療介護サポートセンターメンバー紹介



医療と介護の連携に関すること、どこに相談すればよいかわからなくて困っていることなど、気軽にサポートセンターまでご相談ください。一緒に考えさせていただきます。

在宅療養者の生活の場において、「日常の療養支援」「入退院支援」「急変時の対応」「看取り」の4つの場面を意識した医療介護連携の取り組みが必要とされています。また、在宅で療養生活を送られている方は、複数の疾患を有し、医療と介護の両方のニーズや生活支援に対するニーズを有するため、これに対応する仕組みが必要になります。

この4つの場面の『理想の医療と介護の連携とは？～灘区がこうなったらいいな～』を現状把握や情報共有を図りつつ、課題(現状と理想のギャップ)を抽出し、その課題解決に向けた方策の検討まで行ってきました。

令和8年度では更に、皆さまと共に、抽出された課題への効果的かつ具体的な対応や対策(方策)の取り組みを進めてまいります。

医療介護サポートセンターについて

「医療介護サポートセンター」は、神戸市内の各区の医師会内に設置されています。地域の医療・介護関係者の連携をサポートすることで、安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

=具体的な機能と役割=

●在宅医療に関する相談窓口

医療、介護の関係者からの在宅医療に関する相談に対して、コーディネーターが必要な情報提供や支援・調整を行います。

●地域の在宅医療・介護資源の把握

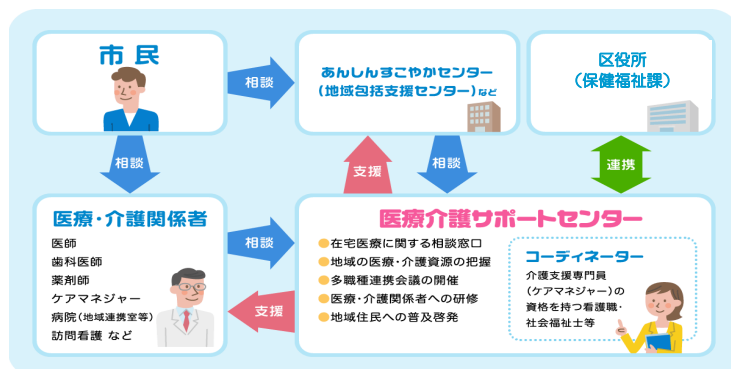
地域ごとに、在宅医療に取り組む病院、診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、介護施設などの情報を収集し、関係者間の連携・調整に活用します。

●多職種連携の推進(多職種連携会議の開催、医療・介護関係者への研修)

地域の医療・介護関係者の連携を推進するため、お互いの業務の現状を知り、顔が見える関係づくりを目的とした、多職種連携会議を開催します。また、医療・介護等の専門職を対象とした、在宅医療・介護に関する研修会を開催します。

●地域住民への普及啓発

市民を対象に、在宅医療・介護への理解を深めることを目的とした講演会などを開催します。



お気軽にご相談ください

【ご相談について】

医療介護サポートセンターは、医療・介護関係者からの在宅医療に関する相談に対応しています。(市民からの介護に関する相談は、あんしんすこやかセンターをご案内ください。)



R8 年度の研修会予定

参加費は無料です

詳細が決まり次第、順次お知らせいたします。
顔の見える関係づくりにもご活用ください！

2026 年度 灘区医療・介護関係者の研修会

1) 「食支援—第5弾—」

*多職種が協働し“食べる”を支えることが地域での食べる力を高めます。口腔機能や食事摂取の改善に関わる専門職から支援のポイントなどをお聞きしながら、事例を通して学ぶ研修会です。

今回は、病院と在宅の栄養士の役割と取り組み、地域で生活されている高齢者や低栄養のリスクが高い在宅療養患者さんへの「食」のサポートのリアルをお話いただく予定です。

【日時】 8月6日（木）14：00～を予定

【場所】 灘区文化センター 5階大会議室



2) 「災害時の対策・対応」

*今後起こりうる災害に備え、行政や関係機関の発災時の動きや取り組みを知り、医療・介護・福祉の専門職が災害時の対応や対策について意識を高め、平時から関係機関や同業種、他業種間の連携方法を考える研修会です。

【日時】 10月17日（土）14：00～16：00 を予定

【場所】 灘区文化センター 5階大会議室

3) 「医療と介護の連携」

*地域で生活する医療的ニーズが高い方の対応について理解を深め、支援チーム間の連携のタイミングや情報共有について、事例を通して忌憚のない意見交換ができる機会です！

【日時】 10月29日（木）18：00～を予定

【場所】 灘区文化センター 5階大会議室

令和8年度 病院と在宅との交流研修会

【日時】 7月2日（木） 開催時間未定

（名刺をご用意ください）



【場所】 灘区文化センター 5階大会議室

【対象】 病院の医療職、福祉職 在宅の医療職、ケアマネジャー、あんしんすこやかセンター

第18回認知症医療連携勉強会

（共催：灘区医師会・灘区医療介護サポートセンター）

*在宅の医療と介護の専門職が認知症の最新治療や治験の動向を理解し、診療現場や介護現場での課題に対応できることを学ぶ勉強会です。

演題・講師・事例紹介：（調整中）

【日時】 12月3日（土）14：00～16：30 を予定

【場所】 灘区文化センター 5階大会議室



第25回さくら塾～灘区多職種連携研修会～

（主催：灘区在宅ケア推進会・灘区医療介護サポートセンター）

*在宅医療・介護に携わる多職種の相互理解や情報共有ができ、皆さまが連携して取り組める体制づくりを進めていくために、毎年定期的に「さくら塾」を開催しています。

第25回のテーマは前回に続いて「灘区のめざす姿」です。

テーマ：『灘区のめざす姿 ～各団体・団体間の連携で取り組みを進めよう～』

【日時】 9月5日（土） 時間は14：00～16：30 を予定

【場所】 灘区文化センター 5階大会議室



第26回さくら塾～灘区多職種連携研修会～

（主催：灘区在宅ケア推進会・灘区医療介護サポートセンター）

テーマ：未定

【日時】 2027年3月6日（土） 時間は14：00～16：30 を予定

【場所】 灘区文化センター 5階大会議室

【眼科往診について】

70歳、要支援2(区分変更中)

在宅酸素療法中で少しの体動で呼吸苦がある。

緑内障で病院に通院していたが、通院の負担が大きくなったため訪問診療をお願いしたい。

対応➡訪問診療を依頼する場合、検査が欠かせず、初回は通院が必要になる可能性があること、病院からの紹介状が必要であることを説明し、自宅から近く訪問診療可能な眼科情報を複数提供しました。

【栄養士が在籍し訪問診療が可能な医療機関について】

70代後半、要介護2、肺がん(BSC=がんに対する積極的治療を行わずに症状緩和の治療のみを行うこと)の方。

腸閉塞を繰り返している。退院後は高カロリー輸液のみになる予定。栄養管理のコンプライアンスが悪い方なので、

栄養士の指導を導入したい。

対応➡区内で該当する医療機関について情報提供を行いました。



研修会開催報告

令和7年度 灘区多職種連携研修会

多様な疾患を持つ患者・利用者の歯科診療について理解を深めましょう

日時: 令和7年10月25日(土) 18:00~19:30 場所: 灘区文化センター5階 大会議室

共催: 灘区歯科医師会/灘区医療介護サポートセンター 参加者: 41名

内容: 講師: 神戸市立医療センター中央市民病院 歯科・歯科口腔外科部長 谷池 直樹先生

演題: 「総合病院における歯科の役割~神戸市立医療センター中央市民病院・歯科口腔外科の実際~」

地域包括ケアにおける歯科の実践と課題

- ・入院中に歯科治療を行った患者には、歯科からも継続して口腔ケアや歯科治療を行ってもらうために診療情報提供を行うことがある。
- ・在宅に帰り、在宅の歯科に繋がればよいが、転院してその病院に歯科がなく、往診可能な歯科と連携がない場合、継続した歯科治療が難しくなる。
- ・持続的な歯科治療が一時中断することが、地域包括ケアにおける歯科の問題。

【参加者の印象に残ったこと/感想】

- *口腔ケアの大切さは十分理解しているが、在宅の現場では「そこまで必要」という認識が乏しく「しない」「できない」「難しい」で、誤嚥性肺炎を繰り返してしまう。
- *歯1本が原因で重大な病気にかかってしまう。虫歯だけではなく、肺炎、肺塞栓症、敗血症など。
- *歯科のない病院へ歯科往診が依頼できるようになるとより良い連携ができる。
- *多職種連携を行うことで、技術の水準向上につながる。

誤嚥性肺炎を予防するための口腔ケア

- ・発症率が高いのは、嚥下障害の強い方、寝たきりの方、意識障害のある脳血管障害の方、長期間歯科治療を受けていない方。
- ・誤嚥性肺炎は再発率が高いが、歯科医による専門的な口腔ケアで再発を抑制できる。
- ・ブラッシング(スポンジでは不十分)、口腔の生理機能の維持(早期嚥下リハなど)、歯科医による診断治療が大切。



令和7年度 灘区医療・介護関係者の研修会

食支援第4弾「食べる」を支える多職種連携 最期まで「食べる」を楽しむ摂食嚥下支援~事例から学ぶ~

日時: 令和8年3月7日(土) 14:00~16:10 場所: 灘区文化センター5階 大会議室 参加者: 51名

内容: 講演 1) テーマ: 歯科の訪問診療について

講師: ころき歯科 院長 黒木輝哉先生

講演 2) テーマ: 在宅における言語聴覚士の食支援

~生活の中で「食べる」を支える~

講師: 神戸海星病院 リハビリテーションセンター

言語聴覚士 小原裕夫氏

3) レクチャー・実技

テーマ: 口腔管理ができない人への介入

講師: 兵庫県歯科衛生士会

歯科衛生士 二神真由美氏



歯科医師から伝えたいこと

- ・良い歯と悪い歯を分ける。「不必要な歯」「入れ歯を作る設計上邪魔な歯」「機能していない、または悪さをしている残根」「機能していない親知らず」は元気なうちに早めに抜歯しておく。高齢になればなるほど環境も悪くなるし、多剤服用されるので、早いうちに抜歯をしておいてほしい。歯がボロボロになる、崩壊していくのを待つのではなく、なるべく歯はきれいに整っていた方がよい。
- ・電話やFAXで往診の依頼をいただくが、その患者さんの口腔環境がなぜこうなってしまったのか、あえて根っこを残しているのか、などニュアンスがわからないので、自宅から一番近い歯科医院をかりつけにして、なんでも診てもらおうというのが一番の理想。その歯科医師が訪問診療をしてくださればなお良し。
- ・歯は予防ができる。予防すればするだけ、手をかければかけるだけ、歯の寿命は延びるので大切にしていきたい。
- ・摂食・嚥下・食支援に「口腔内環境を整える」を加えてほしい。「歯を磨く+α」が大切。

言語聴覚士から➡「食支援が難しくなる要因」は、どこをみていいかわからない。職種ごとに視点が異なるので共通の視点が必要。

主治医への報告が必要な嚥下の異常に気付く。KT バランスチャートは「食べる」を支援するための評価の1つで、13項目(食べる意欲、全身状態、呼吸状態、口腔状態、認知機能、咀嚼・送り込み、嚥下、姿勢・耐久性、食事動作、活動、摂食状況レベル、食物形態、栄養)の評価を総合的に行うことができる。その観察したポイントを多職種で共有することが大切。

歯科衛生士から➡開口維持困難な方、不随運動の強い方、拒否のある方に対する口腔ケアのコツの実演。

痛みが出てから、口臭がひどくなってから、慌てて歯科につながるということが多い。本来、定期的にメンテナンスに通われていた方が、認知症で通院を忘れてしまったりして止まってしまふ。定期的に関わっている支援者が日常の会話やサービス担当者会議の中などで、歯科に通えているかなどを聞き取って声かけをしてほしい。誤嚥性肺炎や口の中の崩壊予防になる。表情が明るくなり、しゃべることもできる、比較的最期までお口の中をきれいに保つことにより生活の質が上がる。



第24回さくら塾 ～多職種連携研修会～

「灘区をめざす姿～みんなで考えよう！住み続けたいまち・灘～」

在宅療養者の生活の場において、医療・介護・福祉の連携した対応が求められる「日常の療養支援」「入院支援」「急変時の対応」「看取り」「感染症発生時」「災害時対応」「認知症の対応」と、ライフサイクルにおいてそれぞれの場面を意識した取り組みが必要とされています。これらの場面について、抽出された課題への効果的かつ具体的な対応や対策を灘区在宅ケア推進会で協議し、灘区全体で取り組みを進めていこうとしているところです。

日時:令和8年2月14日(土)14:00～16:30 場所:灘区文化センター5階大会議室 参加者:54名

主催:灘区在宅ケア推進会、灘区医療介護サポートセンター

研修目標: ①「灘区をめざす姿」を皆で共有する ②「わたしができること」を考える

内容:1)第1部 <活動報告と共有> 「みんなで考えよう！住み続けたいまち・灘」 灘区医療介護サポートセンター コーディネーター

第2部 <講演> 「そこに、AI(あい)はあるのか!？」 講師: ラディックス株式会社 山下陽平氏

第3部 <グループワーク> 1) 「わたしができること」を考えてみよう

2) 共有・それぞれの職種が協働できることを考えてみよう

<全体共有グループ発表>

<グループ発表から>

- ・連携ツールについて、オンラインを活用できているところできていないところやツールも様々。具体的にできることや活用方法等に関する情報を整理し、活用を進めていかなければならないと感じる。
- ・日常の療養生活を整えることが大切。急変時や看取り、その他の場面にも生きてくる。
- ・サービス担当者会議が重要。多職種が集まる貴重な機会であること、その場で今後どう過ごしたいか、DNARの確認や緊急時の対応を関係者間で共有しておくことが重要。また、担当者会議で情報の更新をすることが大切。安心シートや ACP の情報は変化するので、担当者会議の場で情報を更新していくことが重要。
- ・地域との顔の見える関係づくり、支援者間の顔の見える関係づくりを進めていくことが大切。
- ・安心シートの普及と活用が大切。
- ・ACP は元気なうちから啓発が必要。

<まとめ>

参加者された方々からは、多職種が集まり意見交換ができる、顔の見える関係づくりができる有意義な機会だという意見を多くいただきました。

グループワークでは、具体的なテーマで同業種、他業種、多職種と一緒に考えることで、それぞれの日々の業務上での連携や患者・利用者との関わり方をイメージしながら参加者間で共有できたのではないかと感じました。

日頃から、サービス担当者会議などを活用し、本人や家族、支援関係者で検討する場面での具体的な話し合いが重要だということを全体で共有し、再認識する機会となりました。

ACP を考えるタイミングは、「高齢になったから」「病気になったから」ではなく、若くて元気なうちから「死」を考える姿勢が大切で、例えば、「親が倒れた時」、「介護保険を申請した時」、「自分が入院した時」など、きっかけに年齢や病期は関係ないのではないのでしょうか。とある講演で聞いた話を思い出したのですが、人生観がうかがえる「ライフスタイルの志向」、「住まいの状況」、「金銭事情」において「最後はどうしたいのか？」まで決めるにあたり「患者さんや利用者さんのことを知ろうとすること」が何より重要なのだそうです。得られた自由な語りをベースとして、繰り返しの話し合いの中で、自然と希望する医療やケアも見えてきます。

この「灘区をめざす姿」の具体的な取り組み(方策)を「どこが」「誰が」行うのか。各団体で取り組むこと、団体間の連携で取り組むこと、在宅ケア推進会で取り組むこと、各職種、個人が具体的に取り組むことの実施を進めていこうとしているところです。

日々の業務の中で、それぞれが意識して取り組んでいくことで、めざす姿に近づいていきます。

さくら塾は今後も様々なテーマで開催していきます。ぜひ みなさまご参加ください！！



【編集後記】新年度がスタートしました。春の花々の香りをのせて穏やかな風が吹く季節になりました。春は、気候はもちろんのこと、新しい職場や新しい仲間、引っ越しなど「変化」の多い季節です。春は1年で最も元気になる季節と思われている方も多いのではないのでしょうか。しかし、意外にも不調を感じやすい季節でもあります。気温高低差に伴う体温調節や、新しい環境での心の疲労などで、体と心にストレスを与えてしまい、メンタル面を支える自律神経も乱れがちになります。春にバテない健康管理を、早めに自分に合った対策を行うことが大切です。



医療介護サポートセンター ホームページのご案内

医療介護サポートセンターのホームページでは、各区サポートセンターの紹介やお知らせ、市民講座、研修案内、活動報告などご覧いただくことができます。ぜひ、ご活用ください。

URL:<https://kobe-iks.net>



灘区医療介護サポートセンターのページ

URL:<https://kobe-iks.net/area/nada>

二次元コードはこちら

